1　国語

学校番号	３２０

令和３年度　国語科

教科	国語科	科目	国語表現	単位数	2	年次	3
使用教科書	「国語表現　改訂版」　（大修館書店）						
副教材等	「テスト式　国語常識の総演習　修訂三版」（京都書房）						

1 担当者からのメッセージ

基本的な語彙力を身につけるために、授業中に小テストを実施します。
「話す」力を身につけるために、授業中に前に出て発表をしてもらいます。
「書く」力を身につけるために、様々な文章を書いてもらいます。

2 学習の到達目標

基本的な語彙力を身につけ、「話す」「書く」「考える」ために必要な方法を知り、社会に出て通用するコミュニケーション能力を身につける

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり，話し合ったりして，自分の考えを深め，発展させている。	相手や目的，意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き，自分の考えを深め，発展させている。	言葉の特徴やきまり，役割などについての理解を深め，知識を身に付けている。
主たる評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度等） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート等）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度等） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート等）	・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート，紹介文・論文などの作成した文章等） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容等） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート，作成した文章等） ・定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※　次表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　　c:書く能力　　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて〇印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」）に関わる観点には◎を付している。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	e		
1学期	書く①	いろいろな条件を与え、表現することを考えさせ、実践する。		○	◎	○	b 自己紹介、新学年の豊富等の文章を書かせ、自己を客観的に見つめ、的確にわかりやすく表現できる。 e 原稿用紙の書き方を確認し、正しい日本語の使い方、文章の書き方を理解している。 c テーマを与え、そのテーマに合った文章を考え、まとめている。	行動の観察 記述の確認
	話す	面接の練習を通じて、自己を表現する能力を身につけさせる。		◎	○		c　面接用シート（履歴、志望動機、自己ＰＲ文等）を書かせ、自己を客観的に見つめ、的確にわかりやすく表現できる。 b　二人一組になり面接の練習をし、互いに相手のことをきちんと評価できる。 b　個人面接またはグループ面接という設定で模擬面接をし、自分の思いや考えが面接官に伝わるよう、声の大きさや速さ、間の取り方などに注意して表現できる。	行動の観察 記述の確認 面接（実技）
	説明する①	図書プレゼンテーションをすることで、自分が感じた図書の魅力をわかりやすく伝える能力を身につけさせる。		◎	○		c　他の人に読んでほしいと思う本の魅力が伝わるように、表現の仕方を工夫した紹介文が書けている。 b　伝えたい内容が聞き手に伝わるよう、声の大きさや速さ、間の取り方などに注意して表現できる。	行動の観察 記述の確認 発表（実技）

	書く②	小論文を書くことを通して、課題文を批判的に読みながら自分の考えをまとめ、論理的で説得力のある文章を書く力を身につける。	○		◎		a　課題文を批判的に読み、筆者の意見に対する自分の考えを明確にしている。 c　自分の考えが読み手に効果的に伝わるよう、論理的にまとめている。 c　自分の考えを「序論・本論・結論」の形で、800 字から 1200 字程度の小論文にまとめている。	行動の観察 記述の確認
2学期	調べ物学習①	本や新聞、インターネットを利用した情報収集の技術を見につけさせる。	○		◎		a　課題に基づいて、本や新聞、インターネットを利用して資料を探し出し、正確に記録できている。（a, e） c　集めた情報・データを整理し、わかりやすくまとめている。（c）	行動の観察 記述の確認
	調べ物学習②	プレゼンテーション用のポスターを作成させる。（グループワーク）		○	◎		b　5～6 人 1 組のグループに分かれ、それぞれ「調べ物学習①」で集めた情報・データを持ち寄り、グループ毎でまとめている。（a, b, c, e） c　グループの考えが聞き手に効果的に伝わるような、プレゼンテーション用のポスターを作成できている。	行動の観察 記述の確認
	調べ物学習③	プレゼンテーション（発表）をさせる。（グループワーク）		◎	◎		c　グループ内で、話す順番や話の組み立て方、プレゼンテーション用のポスターの提示の仕方などを工夫している。 b　調べた内容を正しく捉え、わかりやすい、説得力のあるプレゼンテーションができている。	行動の観察 記述の確認 発表（実技）

	書く③	意見文を書くことで、論理的で説得力のある文章を書く力を身につける。			◎		c　新聞に投稿文を書くことで、世間の様々な人に対して自分の思いや考えをわかりやすく伝えることができている。	行動の観察 記述の確認
	書く④	手紙文の書き方を身につけることで、社会の様々な場面で適切な通信文を書く力を身につける。			◎	○	e　改まった通信文に用いられる頭語と結語、時候の挨拶、敬語などの表現を正しく理解している。 c　手紙文のもつ特徴を知り、身近な人に自分の近況を丁寧に伝える手紙文を書けている。	行動の観察 記述の確認
3学期	討論する	ディベートをすることで、テーマに沿って、賛成・反省の立場に別れ、討論形式で発表する力を身につける。 また、立場を入れ替えて逆の立場からの見解を考えさせる。		◎	○	○	c　課題に対して、賛成か反対か自分の主張を考え出し、文献やインターネット等から主張の根拠となる事柄を集めて整理・分析し、説得力のある論拠をまとめている。 e　賛成側･反対側二つのグループに分かれ、自分たちの主張の正当性をまとめるとともに、その主張に対する反論を予測し、その反論に対する反論を考えている。 b　賛成側と反対側によるディベートをし、互いに相手側の主張の論理性や妥当性などについて考えながら聞くとともに、自分側の主張を論理的に説得力をもたせるように説明している。	行動の観察 記述の確認 発表（実技）
	広報する	母校の PR をすることで、帰属する組織・集団を客観的に見る力や、その魅力をアピールする力を身につける。		◎	○		c　懐風館辞典（懐風館高校にまつわることについて、自分なりの意味と解説を書く）を作成できている。 b　パワーポイントやスライドを使用しながら、懐風館高校の PR ができている。	行動の観察 記述の確認 発表（実技）